推薦入試・自己PRカード作成ワーク 解答解説

記入例・考え方・確認観点｜人間確認前の試験版

対象教科	推薦入試
対象単元	自己PRカード
問題数	1問
目標時間	90分
難易度	基礎～標準
公式確認日	2026-08-03

重要： 令和9年度の詳細な実施要綱・同細目は2026年8月3日時点で公表前です。この教材は現行Q&Aと公表済みの令和8年度資料に基づく確認待ち版です。提出時には令和9年度の要綱、志望校の募集案内、公式様式を必ず確認してください。

問題 1

経験の棚卸しと志望校の公式情報を使い、自己PRカードの3項目について、事実に基づく一貫した下書きを作りなさい。完成後は、志望理由・中学校で得たこと・卒業後の進路がつながっているか確認しなさい。

正答：本人の経験と志望理由に基づくため一つに定まらない。3項目それぞれに具体的な事実があり、相互に矛盾せず、自分の言葉で説明できる下書きが正答例となる。

考え方・作成手順

1. 志望校の特色と『本校の期待する生徒の姿』から、自分と関係する要点を選ぶ。
2. 中学校内外の経験を、状況・役割・行動・変化・学びに分ける。
3. 公式3項目を、それぞれ結論・具体的事実・今後の行動の順に下書きする。
4. 3項目のつながり、事実関係、学校名・学科名を確認する。
5. 先生や保護者の確認を受けた後、自分の言葉で書き直す。

詳しい解説

自己PRカードでは、華やかな実績の有無よりも、自分が経験をどう捉え、何を考えて行動し、何を得たかを具体的にすることが重要である。志望校の特色を写すだけではなく、自分の経験や関心と結び、入学後の行動と卒業後の方向まで一貫させる。

間違いやすい点

抽象的な長所だけを書く、学校案内の表現をそのまま並べる、活動名だけで自分の行動を書かない、3項目で将来像が食い違う、記入例を自分の経験に置き換えず写す、といった書き方。

都立入試ナビ

確認観点

公式資料上、自己PRカードは点数化されない。教材上の確認観点は、事実の具体性、自分の行動と学び、志望校との結び付き、3項目の一貫性、面接で説明できる本人性であり、合否や得点を保証する基準ではない。

架空の記入例

以下は文章構成を確認するための架空例です。学校名・活動・進路は実在の個人や学校を表しません。

志望理由について

私は、教科の学習を地域の課題と結び付けて考える探究活動に関心があります。中学校の総合的な学習で商店街の利用者を増やす案を班で考えた経験から、資料を集め、相手に伝わる形にまとめる学びを続けたいと思いました。架空の都立みらい高校では地域と協力する探究活動があるため、入学後は調査と発表の力を伸ばしたいです。

中学校生活の中で得たことについて

文化祭の展示係で、準備の進み方が人によって違い、作業が遅れたことがありました。私は作業を小さく分けて一覧にし、得意なことを聞いて担当を相談しました。その結果、全員が締切までに準備を終えました。この経験から、相手の考えを聞き、役割を分かりやすくすることが協力につながると学びました。

高等学校卒業後の進路について

卒業後は、人や地域の困り事を調べ、解決策を伝える仕事や学問について学びたいと考えています。まだ職業は一つに決めていませんが、高校では探究活動と発表に取り組み、大学や専門学校の学びを調べながら、自分に合う分野を具体化したいです。

記入例の読み取り

・志望校の特色を一つに絞り、中学校での関心と入学後の行動につないでいる。

・活動名だけでなく、課題、自分の行動、結果、学びを順に示している。

・進路が未確定であることをごまかさず、今後調べることと高校で身に付けたい力を示している。

・3項目を『調べる・協力する・伝える』という方向でつないでいる。

人間確認が必要な事項

・令和9年度要綱・公式様式の公表後に、提出対象と記入欄を再確認する。

・志望校別の『本校の期待する生徒の姿』と募集案内に照らして調整する。

・学校名、学科・コース名、活動内容、役割、時期の事実関係を確認する。

・本人が面接で自分の言葉として説明できる内容か確認する。

・架空例が実在校・実在人物の記述と誤認されないか確認する。

公式情報確認日: 2026-08-03

都立入試ナビ